

休日当番病・医院

8月27日(日)

- ◆内科 夜間・休日急病センター
旭町 32-0099
- ◆外科 勤医協苦小牧病院
見山町 72-3151
- ◆歯科 わたなべ歯科
新富町 56-5886

診療時間：内科＝9時～翌朝7時、外科＝9時～17時、歯科＝9時～12時。本紙は毎週火曜日に編集のため、その後に休日当番医が変更になってもお知らせすることはできません。ご利用される際には、あらかじめ電話でお確かめください。

法律相談



9月26日(火)
齋藤 耕 弁護士

(定員になり次第締め切ります)
日本共産党苦小牧地区委員会
苦小牧市見山町2-2-6 申込 56-5002

しんぶん赤旗読者のための
親身な相談で定評

日本共産党

民主苦小牧

発行 日本共産党苦小牧地区委員会

苦小牧市見山町2丁目2番6号 電話 56-5002 fax 56-5086
日本共産党のホームページ <http://www.jcp.or.jp>
苦小牧市議団ホームページ <http://toma-jcp.sakura.ne.jp/>
eメールアドレス commun@rose.ocn.ne.jp

◆日本共産党は、大軍拡・大増税許さず、命と暮らしを守る政治実現に全力を尽くします



「戦争させない市民の風・北海道」共同代表の川原茂雄が「ウクライナ問題から日本の平和主義を考える」と題し

「戦争させない市民の風・北海道」共同代表の川原茂雄が「ウクライナ問題から日本の平和主義を考える」と題し講演。東日本大震災を契機に市民向けに始めた出前授業としては550回目です。

川原教授は、ロシアのウクライナ侵略以後、戦場の光景がテレビやネットを通じて映し出されるのを見て、日本でも戦争に巻き込まれる危機感がリアルに高まってきていると懸念。普通の市民が「日本も他国から攻められたらどうする」「平和憲法、第9条で日本を守るのか」と言うようにになり、抑止としての軍備増強をするべきとの主張が出てきている。しかし戦争の準備をすればするほど軍拡競争の「安全保障のジレンマ」に陥り、戦争が起きるリスクが高まり、むしろ抑止力にはならないと反論しました。

川原教授は、戦争は天災ではなく、地震や津波などのように突然来るものではない。世界の歴史を振り返ると、戦争が起きるには原因と理由とプロセスがあると指摘。冷静に考えても日本との間に戦争が起きるかも知れないという理由と原因はあるのかと問いかけます。日本が攻められたら強大な軍力で敵を攻撃して排除すればいいと言うが、原発や各施設にミサイルやド

外交の力発揮せず 軍備増強は本末転倒

反戦平和集会

川原教授が「日本の平和主義」を講義



ローンで攻撃されたら一巻の終わり」と強調しました。

安保関連3文書の改訂の閣議決定の本質は、米軍と自衛隊の一体化を進め、米国が始めた戦争に自衛隊が参加させられることで、自衛隊の攻撃部隊化の実現です。日本が戦争に巻き込まれるリスクは高まっていると警鐘を鳴らしました。

教授は、市民の共同を広げることとして、「市民一人ひとりが平和の願いを伝え世論を創っていく、政治の流れを変えていく動きを創っていくことが大事。新聞などの投稿も有効です」と答えました。

丸代表は、「反戦平和を考える機会をもてたことを嬉し

二度と戦争やってはいけない

紙島山氏ら終戦記念日に宣伝 核廃絶の先頭に



日本共産党の紙智子参議議員や島山和也元衆院議員らは終戦記念日の15日、札幌市北区で街頭宣伝をしました。

紙議員は、多くの若者たちが戦争に駆り出されるなか、特攻隊の青年たちを見送った父の「痛ましいこと」をした。

二度と戦争はやってはいけない」との言葉を紹介。「憲法前文の、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないようにとの決意を今ほど訴えていかなければならない」と語りました。

島山元衆院議員は、憲法前

マイナカード強制になる
健康保険証の
廃止 見直せ
日本共産党

く思います。講義を受けて平和な世界の実現のために行動していきましょう」とあいさつしました。

文から読み直したとし、全世界の国民が平和に生きることを目指すとの理念が書かれていると指摘。基本的人権の尊重、国民主権を定めている意味を胸に刻み、憲法を守り生かす立場を表明しました。

長屋いずみ札幌市議は、札幌市による自衛隊への名簿提供で、共産党市議団が議会提供の中止、除外申請の延長や告知の強化を求め、昨年度2件だった除外申請が今年度は200人を超えた」と報告しました。

昨年入党した青年は、反戦平和を貫いた日本共産党の歴史に感銘を受けたと言いつ、今の情勢に強い危機感をもち、日本こそ核兵器廃絶の先頭に立つべきだと話しました。

赤旗将棋大会

9月9日見山東福祉センター

問合せ
赤旗販売所 56・5002

自衛隊戦車の公道自走訓練

軍港化阻止実行委

中止求め市に要請



苦小牧地区労連議長は、「第7師団の長距離軌道訓練(戦車の公道自走)の中止、及び苦小牧西港の軍事利用反対を求める要請書」を苦小牧市長に提出しました。横山委員長ら6人が市役所を訪れ、野見山慎一市民生活部長らが応対しました。

陸上自衛隊北部方面隊は長距離軌道訓練と称し21日深夜に、東千歳駐屯地から苦小牧西港までの公道約30キロを、戦車等の車両約50両が自走する訓練を強行しました。

要請の内容は、●戦車が深夜に公道を自走することは市民生活に悪影響を与えるものと踏まえ、住民に不安を与え、騒音調査を市に提供すること、●「非核平和都市条例」を制定している市として、港の軍事利用は認められないことや、公道で戦車の自走が当たり前のように行われることに反対する姿勢を表明すること、など4項目を求めています。

野見山部長らは、「戦車はキャタピラにゴムパッドを装着し、20キロ以下で走ることなどを強く要請し、市民生活に配慮してもらっている。核兵器にともなう訓練ではないので条例には逸脱していない」「騒音測定などに職員を配置して訓練に対応する。沿道の市民への周知、マスコミ等での周知をはじめ、測定結果をホームページなどで公開する」「港湾法上、入港は拒否できない。市として中止を求める立場にない」と回答しました。

横山委員長は、「港湾法は日本に軍艦が存在しなかった1950年に制定されたものであり、港湾の安全確保を定める港則法にも軍艦事故への対応は規定されておらず、苦小牧港の軍港化が進むことで市民の安全と商業港としての機能の維持を損なう事態が生じてはならないのではないのか」「国の防衛を政府と自衛隊にすべて委ねてしまうことは、戦前の過ちを繰り返すことにつながるのだから、訓練の内容についてもそれが本当に必要なものかを問う姿勢が大切ではないか」と求め、市が市民の声に応えるために関係機関に強く意見できることを期待している、とあらためて要請を重ねました。

生業と暮らしを守るために
インボイス
実施中止を
日本共産党

野見山部長は、「平和への思いはみなさんと重なっている。市民の思いを私たちは関係機関にそのまま伝える努力をしている。その意味でもこうした要請が行われることの意義も承知している」と発言し理解を求めました。

また同実行委は、「苦小牧港まつり会場での自衛隊車両展示の中止を求める要請書」も提出。苦小牧地区労連の斎藤秀夫事務局長は、私たちの昨年の要請に応える形で港まつり会場での自衛隊車両の展示を、今年が行わなかったことは評価するとし、「そもそも隊員募集の場を祭り会場に設けることに違和感が残る」と訴えました。

ほんの紹介

◆資本主義の告発者とパンデミック 坂本茂男著(新日本出版社) 1760円(税込)

19世紀の英国。コレラの見えない恐怖と向き合ったマルクスとエンゲルスが、貧困にあえぐ労働者に深刻な犠牲が出ていることを現場から調査・告発。それを資本主義のしくみの解明にも生かした歩みを追った労作です。

国会かけある記 いわぶち友であ



汚染水の海洋放出
許さない

東京電力福島第1原発事故によって発生した汚染水の海洋放出をめぐる、岸田首相が福島原発を視察し、全漁連との面会の後、関係閣僚会議で放出時期を決定すると報道されています。政府と東京電力は、2015年に福島県の漁業者と「関係者の理解なしにはいかなる処分もしない。タンク保管を継続する」と約束し、漁業者は「反対」の意思を示し続けています。ところが、政府は放出の時期を、この夏の頃とした方針を変えようとしています。

これをうけて海洋放出に反対する怒りの行動が、国会でも連日のように行われています。この問題は、漁業者だけ、福島県だけ、日本だけの問題ではありません。政府は、「約束は守る」と繰り返しますが、「やめる」とは言いません。「丁寧に説明を続ける」と言いますが、「政府の説明は不十分」は7/8割にのぼっています。政府は、海洋放出以外の方法へとすぐにでも舵を切ることです。

大型タンクで保管する案をはじめ、いくつもの対案が示されています。何より汚染水の発生そのものを抜本的に減らさなければ、タンクはいつまでもなくなりません。その対策も示されているのに、政府も東京電力も、海洋放出ありきです。復興と廃炉のあり方について、福島では様々な立場の人が話し合う「円卓会議」も開催されています。政府はこの声を聞こうとせず、決めようとしています。海洋放出など許されません。みなさんと反対の声をあげ続けます。

くらし優先 なにより平和 日本共産党

日本共産党 演説会

9月18日(月祝)

苦小牧市民会館小ホール
開場 13:30 ~ 開演 14:00

はたやま和也 たつの広志

主催：日本共産党苦小牧地区委員会・後援会



「健康保険証廃止の中止を求め、マイナンバーカード取得の強制に反対します」署名にご協力を。



原爆碑にむけて犠牲者を追悼(6日広島)

岩淵友(いわぶち・とも)
日本共産党参議院議員